自己点検・自己点検評価基準項目チェックシート(令和元年度版)

※　記入箇所は太枠の部分のみです。チェックする欄にも次の記号を入れて下さい。
○＝満たしている　△＝改善を要する　×＝不十分
※　小項目(アイウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基　　準	項　　目	担当	平成３０年度(前年度)自己点検評価状況	前年度改善を要した事項（平成 30 年度記入）	令和元年度チェック欄	令和元年度　実施・改善状況	改善を要する事項（令和元年度記入）
1　学習・教育到達目標の設定と公開 1-1　学習・教育到達目標の設定と公開	(1)　学習・教育到達目標の設定と公開，伝統，資源，卒業生及び修了生の活躍分野等の考慮，社会の要求や学生の要望への配慮 ア　学習・教育到達目標	教務委員会 (専攻科委員会) 各学科等	【教務委員会】 設定された学習・教育到達目標および授業と学習・教育目標との対応表に基づき，学生教育を行っている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の設定し，授業との対応表に基づき授業を実施している。		○ ○	【教務委員会】 設定された学習・教育到達目標および授業と学習・教育目標との対応表に基づき，学生教育を行っている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の設定し、授業との対応表に基づき授業を実施している。	
	イ　学習・教育到達目標の各項目と基準の設定およびその関係		【教務委員会】 学習・教育目標の各項目に基づき，各学科の特色に合わせた基準を設けている。 【専攻科委員会】 各専攻において，継続して学習・教育目標の各項目に基づいて学生が基準となる単位を修得しているかを確認している。		○ ○	【教務委員会】 学習・教育目標の各項目に基づき，各学科の特色に合わせた基準を設けている。 【専攻科委員会】 各専攻において、継続して学習・教育目標の各項目に基づいて学生が基準となる単位を修得しているかを確認している。	
	ウ　過去４年間における学習・教育到達目標の改訂内容と改訂理由		【教務委員会】 商船学科において，海洋工学や陸上の機械技術分野でも活躍できる人材の育成を含めるよう教育目標を改訂した。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実施した。 【機械システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を，継続して実践した。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実践した。今後，学習・教育到達目標等について引き続き検討することとした。 【物質化学工学科】 アドミッションポリシーの改正に係る検討を学科会議で繰り返し行い,化学および生化学などの候補項目から３つを選定する段階にあるが選定案を協議中である。 【電子情報工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を，継続して実践した。 【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実践した。 【商船学科】 海洋工学や陸上の機械技術分野でも活躍できる人材の育成を含めるよう教育目標を改訂した。	MCC に対応する検討を開始する必要がある。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	該当事項なし 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実施した。 【機械システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を，継続して実践した。今後，学習・教育到達目標等について引き続き検討することとした。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実践した。今後，学習・教育到達目標等について引き続き検討することとした。 【物質化学工学科】 アドミッションポリシーの改正に係る検討を学科会議で繰り返し行っている。新しいカリキュラムにも沿うよう選定案を協議中である。 【電子情報工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を，継続して実践した。 【国際ビジネス学科】 国際ビジネス学科のカリキュラムが MCC に対応するための検討を行った。 【商船学科】 前年度改訂した，学習・教育到達目標を実践した。	令和３年度から実施の新カリキュラムに向け学習・教育到達目標を見直す。

			【一般教養科】 目的通り実施した変更の検証につとめた。		○	【一般教養科】 学習・教育到達目標に変更はない。目的通り実施し，検証につとめた。	
	エ　社会の要求や学生の要望を考慮するためのシステムの存在と運用実績		【教務委員会】 学生による授業アンケートを実施し，ＦＤ委員会で授業改善に向けた意見交換を行った。各個別データについては所属学科長を通じ教員へフィードバックし，学科内で改善点について話し合いを行った。 学生と校長等との懇談会を実施し，学生の意見・要望等の把握を行っている。 運営諮問会議（2 回）において，外部委員との意見交換を行った。 県内中学校長を招き，本校の概要説明，施設見学，学生による現状報告の後，意見交換を行った。 【機械システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業アンケートや授業点検アンケートを実施した。また，求人や共同研究，技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。 【電気制御システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業アンケートや授業点検アンケートを実施した。 また，求人や共同研究，技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。 【物質化学工学科】 学生の要望等を聞くためにすべての授業科目について授業アンケートや授業点検アンケートを実施した。 また，求人や共同研究，技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。 【電子情報工学科】 今年度も学生の要望等を聞くために授業アンケートを実施するともに学科独自で web 形式のアンケートを実施し授業改善に役立てた。企業人からの話を聴く機会を積極的に設けた。 【国際ビジネス学科】 学生の要望等を聞くために授業アンケートや授業点検アンケートを実施した。その際，授業の改善について学科長と担当教員が話し合いの場を設けるなど，教員が孤立しないような取り組みを行なった。他方，求人や共同研究，技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。 【商船学科】 次世代海事人材育成プロジェクトがKOSEN4.0 イニシアチブ事業に採択され，「英語力育成」，「教材開発」，「カリキュラム検討」「ニーズ調査」の事業を実施した。また，身体的理由により，長期大型船実習が困難になった学生については，乗船実習の代替え措置により卒業出来る制度を運用している。 【一般教養科】 授業アンケートや授業点検アンケートを実施し，学生の声を常に授業の改善にフィードバックしている。		○ ○ ○ ○ ○ ○	【教務委員会】 学生による授業アンケートを実施し，ＦＤ委員会で授業改善に向けた意見交換を行った。各個別データについては所属学科長を通じ教員へフィードバックし，学科内で改善点について話し合いを行った。 学生と校長等との懇談会を実施し，学生の意見・要望等の把握を行っている。 運営諮問会議（2 回）において，外部委員との意見交換を行った。 県内中学校長を招き，本校の概要説明，施設見学，学生による現状報告の後，意見交換を行った。 【機械システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業アンケートを実施した。また，求人や共同研究，技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。 【電気制御システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業アンケートを実施した。 また，求人や共同研究，技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。 【物質化学工学科】 学生の要望等を聞くためにすべての授業科目について授業評アンケートを実施した。 また，求人や共同研究，技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。 【電子情報工学科】 今年度も学生の要望等を聞くために授業アンケートを実施し授業改善に役立てた。企業人からの話を聴く機会を積極的に設けた。 【国際ビジネス学科】 授業~~評価~~アンケートを実施した。その際，授業の改善について，学科会議で学科長と担当教員が話し合いを行い，教員が孤立しないような取り組みを行なった。各教員が行った授業に対する工夫などの情報を学科教員全体で共有することができた。 【商船学科】 次世代の海洋人材の育成に関する事業（１．海事・海洋分野の人材育成事業の実施）に採択され，「グローバル力向上」，「教材開発」，「キャリア教育」「教員FD」の事業を実施した。また，身体的理由により，長期大型船実習が困難になった学生については，乗船実習の代替え措置により卒業出来る制度を運用している。 【一般教養科】 授業アンケートを実施し，学生の声を常に授業の改善にフィードバックするよう心がけた。	
	オ　学習・教育到達目標の水準の設定に関する説明		【教務委員会】 学生に対し，入学時オリエンテーションで説明を行っている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の水準の設定については，入学時のオリエンテーションにおいて，学生に十分説明している。また，各授業科目においては，開始時のオリエンテーションにて，シラバスを配付して科目毎の水準（ルーブリック）を説明している。		○ ○	【教務委員会】 学生に対し，入学時オリエンテーションで説明を行っている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の水準の設定については、入学時のオリエンテーションにおいて、学生に十分説明している。また、各授業科目においては、開始時のオリエンテーションにて、シラバスを配付して科目毎の水準を（ルーブリック）を説明している。	

			【機械システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，各担当教員が，授業開始時に学生にシラバスを配布，もしくは提示し，学生に，十分説明した。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明した。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明している。 【物質化学工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。これ以外でも，折にふれ授業内でシラバスを確認するように学生に促している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明している。 【電子情報工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明している。 【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明している。 【商船学科】 商船学科での電子掲示版を継続運用した。常時学生に学習・教育到達目標の水準について掲示し周知に努めた。さらに授業開始時に学生にシラバスを配布し，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みを十分説明した。 【一般教養科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明している。		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	【機械システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，各担当教員が，授業開始時に学生にシラバスを配布，もしくは提示し，学生に，十分説明した。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明した。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明している。 【物質化学工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。これ以外でも，折にふれ授業内でシラバスを確認するように学生に促している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明している。 【電子情報工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明している。 【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明した。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みも説明した。 【商船学科】 商船学科での電子掲示版を継続運用し学生に学習・教育到達目標の水準について掲示し周知に努めた。さらに授業開始時に学生にシラバスを配布し，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みを十分説明した。 【一般教養科】 学習・教育到達目標の水準の設定については，授業開始時に学生にシラバスを配布し，学生に，十分説明している。また，授業の目標，計画，内容，評価の仕組みについても折に触れ説明している。	
	カ　学習・教育到達目標における伝統，建学の精神，理念などの考慮		【教務委員会】 本校の学習・教育到達目標は，伝統，建学の精神，理念などを踏まえ設定されたものである。 【専攻科委員会】 本校の学習・教育到達目標は，伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，設定されたものであり，その理念のもとに学習・教育を継続して実施した。 【機械システム工学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。さらに，学科会議において，教育理念に照らし合わせて，授業科目の内容と設備，担当者などについて検討した。 【電気制御システム工学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また，学科会議において，教育理念に照らし合わせて，授業科目の内容と設備，担当者などについて検討した。 さらに，低学年の専門基礎科目，実験等において担当者間で科目間連携，授業内容の検討等を行った。	H31 年度入学生より JABEE 認定を継続しないことから， JABEE 認定に関わる公開方法について検討して対応する必要がある。	○ ○ ○ ○	【教務委員会】 本校の学習・教育到達目標は，伝統，建学の精神，理念などを踏まえ設定されたものである。 【専攻科委員会】 本校の学習・教育到達目標は、伝統、建学の精神、理念などを踏まえ，設定されたものであり、その理念のもとに学習・教育を継続して実施した。 JABEE 認定をとりやめたが、技術者教育プログラムとしての規則は継続しており、教育目標における大きな変化はない。 【機械システム工学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。さらに，学科会議において，教育理念に照らし合わせて，授業科目の内容と設備，担当者などについて検討した。 【電気制御システム工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また、学科会議において，教育理念に照らし合わせて，授業科目の内容と設備，担当者などについて検討した。	

			【物質化学工学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。他学科同様に，今年度始めにカリキュラムポリシー及びデプロマポリシーを設定した。現在，アドミッションポリシー改正の議論が当該学科で進んでおり，新教育体制も見据えた上で複数案からの絞り込み段階にある 【電子情報工学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また，学科会議において，教育理念に照らし合わせて，授業科目の内容と設備，担当者などについて検討した。 【国際ビジネス学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また，学科会議において，教育理念や本科の伝統に照らし合わせて，カリキュラムや授業科目の内容などについて検討した。 【商船学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。また，商船学科学生を一同に集め商船学科集会を同様に開催し，最新のトピックスを交えて商船学科固有の教育方針，シーマンシップについての意識の向上を図った。 【一般教養科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学科の特性に合わせた達成度目標を，随時みなおしつつ学習内容の組み立てをはかっている。		○ ○ ○ ○	【物質化学工学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。他学科同様に，今年度始めにカリキュラムポリシー及びデプロマポリシーを設定した。現在，アドミッションポリシー改正や新カリキュラムも見据えた上で複数案からの絞り込み段階にある。 【電子情報工学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また，学科会議において，教育理念に照らし合わせて，授業科目の内容と設備，担当者などについて改善した。 【国際ビジネス学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また，学科会議において，教育理念や本科の伝統に照らし合わせて，カリキュラムや授業科目の内容などについて検討した。 【商船学科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学習・教育到達目標の設定を継続実践した。また，商船学科学生を一同に集め商船学科集会を同様に開催し，最新のトピックスを交えて商船学科固有の教育方針，シーマンシップについての意識の向上を図った。 【一般教養科】 伝統，建学の精神，理念などを踏まえ，学科の特性に合わせた達成度目標を随時検討し，適切な学習内容の組み立てをはかっている。	令和３年度から実施の新カリキュラムに向け学習・教育到達目標を見直す。（再掲）
	キ　学習・教育到達目標におけるカリキュラムの人的，設備的資源の考慮		【教務委員会】 博士号所有の専任教員及び企業を始め他機関での勤務経験者を配置し，創造的かつ実践的な技術者・実務者の育成を行っている。また，教育課程に必要な設備整備を順次進めている。 【専攻科委員会】 専攻科長，副専攻科長，各専攻の専攻担当で構成される体制のもとで，人的資源，設備的資源ともに継続実施した。 【機械システム工学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。また，学科会議において授業科目の内容と設備，担当者などについて検討した。 【電気制御システム工学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。なお，学科会議において授業科目の内容と設備，担当者などについて検討した。また，学科共通経費等により，学生実験等で使用する教育実験設備を整備した。 【物質化学工学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。 授業内容の深遠化を継続した。また,新設された機器分析実験実施のため，NMR のメンテナンスを継続実施した。 【電子情報工学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。 １年生の技術者倫理入門において，電子情報工学科教員による授業を継続実施・改善するとともに上級生からの話を聴く機会を設けた。1 年ものづくり実験については，工場と連携した実験とし，学科が対象とする，ものづくりと電気電子情報分野を網羅する内容に継続改善した。	NMR のメンテナンス継続のための外部資金獲得が急務である。	○ ○ ○ △ ○	【教務委員会】 博士号所有の専任教員及び企業を始め他機関での勤務経験者を配置し，創造的かつ実践的な技術者・実務者の育成を行っている。また，教育課程に必要な設備整備を順次進めている。 【専攻科委員会】 専攻科長、副専攻科長、各専攻の専攻担当で構成される体制のもとで、人的資源、設備的資源ともに継続実施した。 【機械システム工学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。また，学科会議において授業科目の内容と設備，担当者などについて検討し，学科共通経費等により，学生実験等で使用する教育実験設備を整備した。 【電気制御システム工学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。なお、学科会議において授業科目の内容と設備，担当者などについて検討した。また、学科共通経費等により，学生実験等で使用する教育実験設備を整備した。 【物質化学工学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。 授業内容の深遠化を継続した。また,新設された機器分析実験実施のため，NMR のメンテナンスを継続実施した。 【電子情報工学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。 １年生の技術者倫理入門において，電子情報工学科教員による授業を継続実施・改善するとともに上級生からの話を聴く機会を設けた。1 年ものづくり実験については，工場と連携した実験とし，学科が対象とする，ものづくりと電気電子情報分野を網羅する内容に継続改善した。	NMR のメンテナンス継続のための外部資金獲得が急務である。

			【国際ビジネス学科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。 設備的資源として環日本海資料室に大型モニターと DVD 再生機を設置し，語学の授業や外国理解の教育に活用できるように整備した。 【商船学科】 海技士免状と博士の学位のいずれかを取得している人の採用に努力する。設備的資源については，STCW 関連の設備備品に拡充した。STCW 条約に対応するための最新の実習・教育が行われるよう，ECDIS 講習や消防・救命講習などの講習会に教員を派遣し研修を行った。 【一般教養科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。		○ ○ ○	【国際ビジネス学科】 人的資源，設備的資源ともに考慮を継続実施した。 4 年生が，５年生の進路についての取組の体験談を聴く機会を設け，進路に対する意識を高める契機とした。 【商船学科】 海技士免状と博士の学位のいずれかを取得している人の採用に努力する。海技士免状を有する教員１名を採用した。設備的資源については，STCW 関連の設備備品の拡充と，最新の実習・教育が行われるよう，ECDIS 講習や救命・消火講習などの講習会に教員を派遣し研修を行った。 【一般教養科】 人的資源，設備的資源ともに継続実施した。	
	ク　学習・教育到達目標における当該カリキュラムの歴史と構成，特徴・特色の考慮		【教務委員会】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して点検し，必要な場合には改定を行っている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。 【機械システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行った。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。 なお，1～3 年生に対して HR などを使い，学科の学習・教育到達目標と学習内容，卒業後の進路を説明した。また，3 年生に対しては履修科目のつながり(系統図)と 4 年次の学習内容，進路等について説明した。 【物質化学工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。 【電子情報工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。特に，専攻科進学希望者の研究室配属を優先させ，早期に卒業研究を開始することで，本科生の学会発表が活発となっている。また,ソリューションセンターと連携して，4 年生を対象に，富山県情報産業協会主催のとやま IT フェアに参加することで,県内の情報産業の取り組みを学ぶ機会を作っている。さらに，1～4 年に対し，学習内容，卒業後の進路を説明した。 【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。 【商船学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定，改善を行っている。また，MCC に基づき，5 校の商船系高専と協働して，共通カリキュラムの策定に関して議論を行い，報告書にまとめた。 【一般教養科】 カリキュラムの歴史と構成等を考慮して，学科の特性を生かした教育目標・内容の適正運用を不断に行った。		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	【教務委員会】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して点検し，必要な場合には改定を行っている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。 学位授与機構による特例適用認定専攻科の教育状況の調査において、カリキュラムならびに教員審査を受審し、認定を受けた。 【機械システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行った。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。 なお、1～3 年生に対して HR などを使い，学科の学習・教育到達目標と学習内容，卒業後の進路を説明した。 【物質化学工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。 【電子情報工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行っている。特に，専攻科進学希望者の研究室配属を優先させ，早期に卒業研究を開始することで，本科生の学会発表が活発となっている。また,ソリューションセンターと連携して，4 年生を対象に，富山県情報産業協会主催のとやま IT フェアに参加することで,県内の情報産業の取り組みを学ぶ機会を作っている。さらに，1～4 年に対し，学習内容，卒業後の進路を説明した。 【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定を行った。 【商船学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して，点検・改定，改善を行っている。また，将来の人員構成を考慮しつつ、STCW や MCC に基づき，R3 年度から大幅改定を予定している新カリキュラムの策定のための WG を立ち上げ，議論を行い，教務委員会に素案を提出した。 【一般教養科】 カリキュラムの歴史と構成等を考慮して，学科の特性を生かした教育目標・内容の適正運用を行った。	

	ケ　学習・教育到達目標における卒業生の活躍分野の考慮		【教務委員会】 今までの卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育目標が設定されている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標は，修了生の活躍分野を考慮して設定されている。 【機械システム工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。なお，１～4 年生に対して，HR などの時間を利用して授業計画，卒業後の進路などについて説明を行った。 【電気制御システム工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。 なお，１～4 年生に対して，HR などの時間を利用して授業計画，卒業後の進路などについて説明した。また，3 年生に対して HR の時間を利用して専攻科 2 年生による専攻科説明会を実施した。 【物質化学工学科】 引き続き卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。なお，１～4 年生に対して，HR などの時間を利用して授業計画，卒業後の進路などについて教員および５年生による説明を行った。 【電子情報工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。卒業生を招聘して企業ガイダンスを頻繁に行った。HR などを活用し，キャリア教育を複数回実施した。 【国際ビジネス学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。たとえば，卒業生を招聘して就職・進学ガイダンスを在校生に対して行なった。本科 4 年生にはビジネスゼミナールⅠを通してキャリア教育を複数回実施した。 【商船学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。海事系の職場で海上での仕事が実体験できるよう船会社へのインターンシップ参加を積極的に推進した。企業説明会を 30 社以上実施し，就職支援を行った。さらに，海上で活躍している本校卒業生を招聘して在学生との意見交換会の場を設け，学生の将来設計に基づく学習意欲の向上に努めた。 【一般教養科】 卒業生の活躍分野を視野に入れつつ，学科の特性を生かした教育目標・内容の適正運用を不断に行った。		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	【教務委員会】 今までの卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育目標が設定されている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標は，修了生の活躍分野を考慮して設定されている。 【機械システム工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。なお，１～4 年生に対して，HR などの時間を利用して授業計画，卒業後の進路などについて説明を行った。 【電気制御システム工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。 なお，１～4 年生に対して，HR などの時間を利用して授業計画，卒業後の進路などについて説明した。また，3 年生に対して HR の時間を利用して専攻科 2 年生による専攻科説明会を実施した。 【物質化学工学科】 引き続き卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。なお，１～4 年生に対して，HR などの時間を利用して授業計画，卒業後の進路などについて教員および５年生による説明を行った。 【電子情報工学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。卒業生を招聘して企業ガイダンスを頻繁に行った。HR などを活用し，キャリア教育を複数回実施した。 【国際ビジネス学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。卒業生を招聘して就職・進学ガイダンスを在校生に対して行った。本科 4 年生にはビジネスゼミナールⅠを通してキャリア教育を複数回実施した。 【商船学科】 卒業生の活躍分野を考慮し，学習・教育到達目標の設定を行った。海事系の職場で海上での仕事が実体験できるよう船会社へのインターンシップ参加を積極的に推進した。企業説明会を 30 社以上実施し，就職支援を行った。さらに，海上で活躍している本校卒業生を招聘して在学生との意見交換会の場を設け，学生の将来設計に基づく学習意欲の向上に努めた。 【一般教養科】 卒業生の活躍分野を視野に入れつつ，学科の特性を生かした教育目標・内容の適正運用を行った。	
	コ　カリキュラムに関わる教員への周知方法		【教務委員会】 教員会議，各委員会，並びに各学科において教員へ周知している。 【専攻科委員会】 特例適用認定専攻科および JABEE 認定教育プログラムの概略を含め，履修の手引きを配布するなど，カリキュラムの内容を教員に周知している。また，H31 年度入学生より JABEE 認定の継続をやめて対象外とすることを教員に周知した。		○ ○	【教務委員会】 教員会議，各委員会，並びに各学科において教員へ周知している。 【専攻科委員会】 特例適用認定専攻科、教育目標に対応した科目配置、ならびに履修の手引きの配布等を行い、カリキュラムの内容を教員に周知している。	
	サ　学生への周知方法および周知時期(学年，学期)		【教務委員会】 入学時のオリエンテーションで周知している（１年生対象，４月）。 【専攻科委員会】 専攻科入学時のガイダンスで専攻科のしおり，特例適用認定専攻科の教育プログラムの履修の手引き等を配布し周知している。また，H31 年度入学生より JABEE 認定を継続しないことを本科４，５年生に周知した。		○ ○	【教務委員会】 入学時のオリエンテーションで周知している（１年生対象，４月）。 【専攻科委員会】 専攻科入学時のガイダンスで専攻科のしおり，特例適用認定専攻科の教育プログラムの履修の手引き等を配布し周知している。	

	(2)　学内外への公開方法	教務委員会 (専攻科委員会) 入試広報センター	【教務委員会】 ＨＰ，学生便覧に掲載している。 【専攻科委員会】 JABEE 認定教育プログラムを含め，学習・教育到達目標を公開している。 【入試広報センター】 ＨＰ，学生便覧に掲載している。全面的にリニューアルしたＨＰの運用を開始し，パソコンだけでなく，スマートフォンやタブレット端末でも見やすくなり，ユーザビリティが大幅に改善した。また中国語ＨＰも新しく開設した。		○ ○ ○	【教務委員会】 ＨＰ，学生便覧に掲載している。 【専攻科委員会】 HP，学生便覧，募集要項の入学案内に掲載して公開している。JABEE 認定に関わる事項の広報物への掲載等を見直して修正した。但し、技術者教育プログラムとしての規則は継続しており、学習・教育目標には変更はない。 【入試広報センター】 ＨＰ，学生便覧に掲載している。全面的にリニューアルし，パソコンだけでなく，スマートフォンやタブレット端末でも見やすくなり，ユーザビリティが大幅に改善したＨＰ，および新しく開設した中国語ＨＰを運用し，学内外および国内外に最新の情報を発信している。	
2　教育手段 2-1　教育課程の設計	(1)　カリキュラムの設計と開示 ア　学習・教育到達目標を達成させるためのカリキュラム設計	教務委員会 (専攻科委員会) 教育体制整備推進委員会	【教務委員会】 低学年に一般的科目を多く配置し，高学年になるに従い専門科目を多く導入するくさび形の科目配置でのカリキュラム設計を行っている。 高専機構で制定されたコアカリキュラムへの対応を行った。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標を達成させるためのカリキュラム設計がされ，また修了要件等について学生自身が確認できるように配慮されている。		○ ○	【教務委員会】 低学年に一般的科目を多く配置し，高学年になるに従い専門科目を多く導入するくさび形の科目配置でのカリキュラム設計を行っている。 高専機構のモデルコアカリキュラム対応科目（コア科目）の見直しを行った。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標を達成させるためのカリキュラム設計がされ，また修了要件等について学生自身が確認できるように配慮されている。	
	イ　カリキュラムの教員および学生への開示方法		【教務委員会】 ＨＰ及び学生便覧にカリキュラムを掲載している。また，入学時にオリエンテーションで説明を行っている。		○	【教務委員会】 ＨＰ及び学生便覧にカリキュラムを掲載している。また，入学時にオリエンテーションで説明を行っている。見直しを行ったコア科目についても、Microsoft Teams によりオンラインで学生に周知した。	
	ウ　標準修業年限および教育内容の設定		【教務委員会】 学則に明記している。		○	【教務委員会】 学則に明記している。	
	(2)　科目の授業計画書(シラバス)の作成・開示とそれに従った教育の実施 ア　各科目のシラバスの作成。シラバスには，カリキュラム中での位置付け，教育内容・方法，到達目標，成績評価方法，評価基準を明示	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 全国高専統一の web シラバスを作成した。本シラバスには，学科の到達目標項目との関係，到達目標，ルーブリック，教育方法，授業計画，評価方法が明示されている。 【専攻科委員会】 各科目について，カリキュラム中での位置付け，教育内容・方法，到達目標，成績評価方法，評価基準を明示したシラバスを作成している。また，全専攻について教育目標と授業科目の対応表を入学時ガイダンス等で説明した。		○ ○	【教務委員会】 全国高専統一の web シラバスを作成している。本シラバスには，学科の到達目標項目との関係，到達目標，ルーブリック，教育方法，授業計画，評価方法が明示されている。 【専攻科委員会】 各科目について，カリキュラム中での位置付け，教育内容・方法，到達目標，成績評価方法，評価基準を明示したシラバスを作成している。また、全専攻について教育目標と授業科目の対応表を入学時ガイダンス等で説明した。	
	イ　各科目における達成目標設定の際の社会の要請する水準の考慮方法		【教務委員会】 各科目の到達目標は，社会の要請を考慮し作成されたモデルコアカリキュラムに準拠している。 【専攻科委員会】 シラバスは，学生による授業点検アンケート，科目別学習目標達成度調査の結果，外部識者からの意見等を十分検討した上で作成されている。		○ ○	【教務委員会】 各科目の到達目標は，社会の要請を考慮し作成されたモデルコアカリキュラムに準拠している。 【専攻科委員会】 シラバスは，学生による授業点検アンケート，科目別学習目標達成度調査の結果，外部識者からの意見等を十分検討した上で作成されている。	

	ウ　シラバスの開示方法		【教務委員会】 ホームページ上で公開しており，各教員が学期開始時の授業で，印刷したものを配付している。 【専攻科委員会】 ホームページ上で公開しており，各教員が学期開始時の授業で，印刷したものを配付している。		○ ○	【教務委員会】 ホームページ上で公開しており，各教員が学期開始時の授業で，印刷したものを配付している。 【専攻科委員会】 ホームページ上で公開しており，各教員が学期開始時の授業で，印刷または提示して説明している。	
	(3)　学生自身の達成度点検と学習への反映	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等を通じ，学生自身が学習達成度を確認している。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認し，学習へ反映している。		○ ○	【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等を通じ，学生自身が学習達成度を確認している。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認し、学習へ反映している。	
2-2　学習・教育の実施	(1)　シラバスに従った教育の実施	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 シラバスの授業計画に基づき各授業を実施している。		○	【教務委員会】 シラバスの授業計画に基づき各授業を実施している。	
	(2)　自己学習時間を確保するための取り組み	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 各科目において，課題を課すなど自己学習を促すための対応をとっている。また，放課後の時間を確保できるような校時を設定している。		○	【教務委員会】 各科目において，課題を課すなど自己学習を促すための対応をとっている。また，放課後の時間を確保できるような校時を設定している。	
	(3)　学生の達成状況の継続的な点検	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等を通じ，学生自身が学習達成度を確認している。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認している。		○ ○	【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等を通じ，学生自身が学習達成度を確認している。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認している。	
2-3　教育組織	(1)　教員の数と能力および教育支援体制 ア　教員の数と能力	校長 教育体制整備推進委員会 人事委員会	・教員の人数については各学科の定員を満足するように配置している。		○	・教員の人数については各学科の定員を満足するように配置している。	
	イ　教育支援体制		・教員の支援として，校長裁量経費，研究助成等を選考することで支援している。		○	・教員の支援として，校長裁量経費，研究助成等を選考することで支援している。	
	(2)　科目間の連携・教育効果改善教員間連絡ネットワーク組織の存在と活動の実施 ア　教員間連絡ネットワークの存在	副校長 教務委員会	【副校長】 各キャンパスにおいて，定期的に校長と副校長，校長補佐，学科長との懇談会を実施した。また，テレビ会議による合同開催を含めて教員会議，各種委員会，学科会議などを定期的に開催し，情報共有と意見交換を行った。 【教務委員会】 学科会議，教務委員会，理数教育改善専門部会等が存在し，教員間の連絡を密に行っている。		○ ○	【副校長】 校長と副校長，校長補佐，主事，学科長との両キャンパス合同のテレビ会議による懇談会を定期的に実施した。また，両キャンパス合同のテレビ会議による教員会議，各種委員会，学科会議などを定期的に開催し，情報共有と意見交換を行った。 【教務委員会】 学科会議，教務委員会が存在し，教員間の連絡を密に行っている。今年度は新たに教育活動懇談会を発足し，執行部と全学科長との連絡を密にしている。なお，理数教育改善部会は同懇談会に包含されるため廃止した。	
	イ　教員間連絡ネットワークの活動実績		【副校長】 校長と両キャンパスの副校長，校長補佐との連絡会を定期的に開催した。会議はテレビ会議を有効に活用して両キャンパス間の教員コミュニケーションをはかった。 【教務委員会】 学科会議，教務委員会等の教員間ネットワークを通じ，教育の円滑な実施や新たなカリキュラム，補習等に関する検討を頻繁に実施した。		○ ○	【副校長】 校長，副校長，校長補佐，主事との両キャンパス合同連絡会を 定期的に開催した。会議はテレビ会議を有効に活用して両キャンパス間の教員コミュニケーションをはかった。 【教務委員会】 学科会議，教務委員会等の教員間ネットワークを通じ，教育の円滑な実施や新たなカリキュラム，補習等に関する検討を頻繁に実施した。	
	(3)　教員の質的向上を図る仕組み(ＦＤ)の存在，開示，実施	FD 委員会					

	ア　ＦＤの存在		ＦＤ委員会を設置し，ＦＤ活動についての企画・運営を行っている。		○	ＦＤ委員会を設置し，ＦＤ活動についての企画・運営を行っている。	
	イ　ＦＤの開示方法		ＦＤ研修会及び勉強会へ参加した報告書を学内教職員が閲覧できるよう，学内ネットワークに掲載した。		○	ＦＤ研修会及び勉強会へ参加した報告書を学内教職員が閲覧できるよう，学内ネットワークに掲載した。	
	ウ　ＦＤの実績		・本校教員や機構本部から招聘した講師による FD 研修会を３回実施した。全教員対象１回，各キャンパスで実情に応じたテーマでそれぞれ１回開催した。 ・教員間の授業参観も実施し，評価シートに基づき授業改善等の検討を行った。		○	・本校教員や外部講師による FD 研修 会を３回実施した。全教員対象 1 回，各キャンパスで 実情に応じたテーマでそれぞれ 1 回開催した。 ・教員間の授業参観も実施し，評価シートに基づき授業改善等の検討を行った。	
	(4)　教員の教育活動に関する評価方法の開示・実施 ア　教員の教育に関する貢献の評価方法	副校長 人事委員会	教員顕彰制度を実施した。教員の給与等にも教育業績等を加味した。		○	教員顕彰制度を実施した。教員の給与等にも教育業績等を加味した。	
	イ　教育貢献評価の実績		平成 23 年度から続けて，教員の教育貢献について評価を行っている。 教員表彰や教員の給与に評価内容を反映している。		○	教員の教育貢献について評価を行っている。 教員表彰や教員の給与に評価内容を反映している。	
2-4　入学，学生受け入れ及び異動の方法	(1)　入学者選抜方法の開示とそれに基づく選抜の実施 ア　選抜の基本方針	入試委員会	【入試委員会】 入学者の受け入れ方針は入試委員会で審議決定している。		○	【入試委員会】 入学者の受け入れ方針は入試委員会で審議決定した。	
	イ　具体的選抜方法		【入試委員会】 入試検討 WG における選抜方法等の検討結果を基に入試委員会で審議決定した。		○	【入試委員会】 入試検討 WG における選抜方法等の検討結果を基に入試委員会で審議決定した。	
	ウ　選抜方法の学内外への開示方法	入試広報センター	【入試委員会】 入学者選抜方法の内容を学生募集要項に記載して公開するとともに，オープンキャンパス，中学校訪問，学生募集説明会等において，中学生や中学校教員に対して説明を行った。 【入試広報センター】 入学者選抜方法の内容を学生募集要項に記載して公開するとともに，オープンキャンパス，中学校訪問，学生募集説明会等において，中学生や中学校教員に対して説明を行った。さらに平成 30 年度より，9 月に発行される学生募集要項に先駆けて，入学者選抜に関する要項として入学者選抜方法の内容を周知する文書を 5 月に作成し，中学校訪問，学生募集説明会等において，中学生や中学校教員に対して説明を行い，HP にも掲載した。HP を全面的にリニューアルし，パソコンだけでなく，スマートフォンやタブレット端末でも見やすくなり，ユーザビリティが大幅に改善した。		○ ○	【入試委員会】 入学者選抜方法の内容を学生募集要項に記載して公開するとともに，オープンキャンパス，中学校訪問，学生募集説明会等において，中学生や中学校教員に対して説明を行った。 【入試広報センター】 入学者選抜方法の内容を学生募集要項に記載して公開するとともに，オープンキャンパス，中学校訪問，学生募集説明会，中学校で開催される高校説明会，進学個別相談会等において，中学生，保護者，中学校教員に対して説明を行った。さらに平成 30 年度より，9 月に発行される学生募集要項に先駆けて，入学者選抜に関する要項として入学者選抜方法の内容を周知する文書を 5 月に作成し，中学校訪問，学生募集説明会等において，中学生や中学校教員に対して説明を行い，HP にも掲載している。	
	(2)　編入学方法および編入基準の開示とそれに基づく選抜の実施 ア　選抜の基本方針	入試委員会	編入学方法および編入基準は入試委員会で審議決定している。3 年次において定員に満たない学科等に対して実施に関する意見を確認し，実施希望がある場合に募集を行うこととしている。		○	【入試委員会】 編入学方法および編入基準は入試委員会で審議決定している。3 年次において定員に満たない学科等に対して実施に関する意見を確認し，実施希望がある場合に募集を行った。	
	イ　具体的選抜方法		選抜方法は入試委員会で審議決定した。学力検査，調査書及び面接の結果を総合して選抜を行った。		○	【入試委員会】 選抜方法は入試委員会で審議決定した。学力検査，調査書及び面接の結果を総合して選抜を行った。	
	ウ　選抜方法および選抜基準の学内外への開示方法		7 月に学生募集要項（電子情報工学科）を公表し，HP に掲載した。		○	【入試委員会】 7 月に学生募集要項（機械システム工学科）を公表し，HP に掲載した。	
	(3)　カリキュラム履修生の移籍	教務委員会	該当事項なし		○	教務委員会 該当事項なし	

2-5	教育環境・学生支援	(1)	教室，実験室，演習室，図書室，情報関連設備，自習・休憩設備および食堂等の整備	施設・設備整備委員会，安全衛生委員会	【施設・設備整備委員会】 学生にとって良い教育環境を維持するため，学校施設の整備を継続的に実施している。30 年度は特に女子学生のアメニティ向上のため，女子便所の模様替（和便器を洋便器に取替）を重点に実施した。 （本郷キャンパス） ・営繕事業として，基幹・環境整備（給排水設備）によりライフラインの整備を実施した。 ・施設整備事業として，ブロック塀対策工事を実施し，安全確保に努めた。 ・学内営繕事業として，①防犯のため学寮１号館（女子寮）に格子窓を設置した。②不審者対策のため構内に立入制限の看板を設置した。③水漏れ対策としてM棟共通ラボ３天井の消火栓の配管を取替えた。④専攻科棟渡り廊下，階段教室庇及び福利施設渡り廊下の雨漏を修繕した。 ・計画的に樹木の剪定を実施し，快適な環境づくりに努めた。 （射水キャンパス） 学内営繕事業として 30 年度に「第１寮棟外壁改修」，「第２専門棟トイレ改修」を行い，居住環境・教育環境等の改善を図った。また，校長裁量経費において，第３寮棟３階の女子寮化に向けての整備として寮室，廊下等の壁等の塗装補修，談話室を物干室に内部改修した。また，臨時用務員による構内の自転車置場の塗装補修及び低木の剪定及び草刈り等の環境整備を行った。第１専門棟ＰＨ１・２階廊下・ＰＨ３階フロアの照明設備を人感センサーに設置し，LED 照明器具へ更新。守衛所・水槽実験棟・福利施設及び第１寮棟の一部についても照明設備を LED 照明器具に更新し，省エネ推進を図った。 武道館において後援会・同窓会からの支援を利用し，授業・課外活動等熱中症対策として，換気扇を設置した。	【施設・設備整備委員会】 （本郷キャンパス） 男子便所及び女子便所で未整備の箇所（和便器の便所）の改修を実施したい。 （射水キャンパス） 男子便所及び女子便所で未整備の箇所（和便器の便所）の改修を実施したい	○	【施設・設備整備委員会】 （本郷キャンパス） 学内営繕事業として令和元年度に「合宿研修場トイレ改修」「学生寮渡り廊下歩道補修」を行い，居住環境・教育環境等の改善を図った。また，臨時用務員による低木の剪定及び草刈り等の環境整備,共通棟２卒研室 LED 照明器具への更新し，省エネ推進を図った。 寄付金において BYOD 実施に向けた校舎教室の電源増設及びアクセスポイント増設による強化等を行った。 また、教室西側の廊下に遮光フィルムを貼ることで教育環境の改善を行った。 （射水キャンパス） 学内営繕事業として令和元年度に「第３専門棟トイレ改修」「第２専門棟トイレ改修」を行い，居住環境・教育環境等の改善を図った。また，校長裁量経費において，第３寮棟４階の女子寮化に向けての整備として寮室，廊下等の壁等の塗装補修,トイレの小便器の撤去,寄付金において BYOD 実施に向けた１年生教室の電源増設及び第２専門棟教員室前廊下アクセスポイント増設による強化等を行った。また，臨時用務員による低木の剪定及び草刈り等の環境整備,第２専門棟知的情報処理実験室 LED 照明器具への更新及び第１寮棟の一部についても人感センサー式 LED 足元照明器具に更新し，省エネ推進を図った。	（本郷キャンパス） 男子便所及び女子便所で未整備の箇所（和便器の便所）の改修を実施したい。 （射水キャンパス） 男子便所及び女子便所で未整備の箇所（和便器の便所、洗面の自動水栓化）の改修を実施したい。
		(2) ア	教育環境および学習支援に関して，授業等での学生の理解を助け，学生の勉学意欲を増進し，学生の要望にも配慮する仕組みの存在，その仕組みの開示，活動の実施 支援体制の活動実施状況	教務委員会 学生委員会 寮務委員会 学生相談室 進学・就職指導室	【教務委員会】 低学年を対象として定期試験前に数学・物理の補講を実施した。 特命フェローによる基礎科目の補講を実施した。 開講科目に関する授業アンケートを年２回実施した。 【学生委員会】 ①就学支援-授業料免除や各種奨学金について学生委員会で決定し，実施した。 ②福利厚生-キャンパス内の生協を，生協社員，学生委員会，職員，学生会から構成される理事会で検討し運営している。 ③その他学生支援-学生委員会において各学年に必要と考えられる各種講演会を企画し開催した。 ④全学生を対象にいじめアンケートを実施した。 【学生相談室】 相談員・カウンセラーによる相談を行っている。　　学生の抱える問題を早期発見・対応するために，前期は，低学年対象に hyperQU アンケート，高学年対象に学校適応感尺度調査を，後期は全学対象に学校適応感尺度調査を，それぞれ実施した。	各種アンケート調査の事後対応などが増加し，カウンセラーへの相談業務の集中を解消する必要がある。	○ ○ ○	【教務委員会】 低学年を対象として定期試験前に数学・物理の補講を実施した。 特命フェローによる基礎科目の補講を実施した。 開講科目に関する授業アンケートを年２回実施した。 【学生委員会】 ①就学支援-授業料免除や各種奨学金について学生委員会で決定し，実施した。 ②福利厚生-キャンパス内の生協を，生協社員，学生委員会，職員，学生会から構成される理事会で検討し運営している。 ③その他学生支援-学生委員会において各学年に必要と考えられる各種講演会を企画し開催した。 ④全学生を対象にいじめアンケートを実施した。 【学生相談室】 相談窓口を設置し,相談員・カウンセラーによる相談を行っている。学生の抱える問題を早期発見・対応するために，前期は，低学年対象に hyperQU アンケート，高学年対象に学校適応感尺度調査を，後期は全学対象に学校適応感尺度調査を，それぞれ実施した。	

			【進路指導室】 11 月 7 日に企業研究会を開催し，技術振興会企業 131 社，3，4 年と専攻科の学生が参加した。さらに，4 年生を対象に就職説明会，進学説明会を実施し，のべ 100 名以上(5 月から 1 月までで実施予定)が参加した。 求人ネットシステムにより学生へ求人情報を公開した。		○	【進学・就職指導室】 1 月 15 日に企業研究会を開催し，技術振興会企業 124 社，3，4 年と専攻科の学生を中心に 375 名の学生が参加した。さらに，4 年生を対象に就職説明会，進学説明会を実施し，のべ 100 名以上(5 月から 1 月までで実施)が参加した。 求人ネットシステムにより学生へ求人情報を公開した。	
	イ　支援体制の教員，職員および学生に対する開示		【教務委員会】 支援体制及びその活動実施状況は教員会議で報告している。 【学生委員会】 ①就学支援−授業料免除制度や各種奨学金制度について，掲示板，ＨＰ，学生への説明会，保護者への通知を行った。 ②福利厚生−長期休暇中等の学内生協の実施日時について掲示，案内を行った。 ③各講習会は，掲示板及び担任への周知を行い実施後にはＨＰに掲載した。 【学生相談室】 新入生オリエンテーション時，学科別懇談会時のみならず，入学手続説明会時にも，入学予定者及び保護者に対して相談室の案内をし，カウンセラーによる講演も実施した。在校生に対しては，全体集会の際に相談室の案内をした。ＨＰや高専通信，教室掲示の他，校内に数回「相談室だより」を掲示した。 【進路指導室】 支援体制及びその活動実施状況は教員会議で報告している。		○ ○ ○ ○	【教務委員会】 支援体制及びその活動実施状況は教員会議で報告している。 【学生委員会】 ①就学支援−授業料免除制度や各種奨学金制度について，掲示板，ＨＰ，学生への説明会，保護者への通知を行った。 ②福利厚生−長期休暇中等の学内生協の実施日時について掲示，案内を行った。 ③各講習会は，掲示板及び担任への周知を行い実施後にはＨＰに掲載した。 【学生相談室】 新入生オリエンテーション時，学科別懇談会時のみならず，入学手続説明会時にも，入学予定者及び保護者に対して相談室の案内をし，カウンセラーによる講演も実施した。在校生に対しては，全体集会の際に相談室の案内をした。ＨＰや高専通信，教室掲示の他，校内に数回「相談室だより」を掲示した。 【進学・就職指導室】 支援体制及びその活動実施状況は教員会議で報告している。	
	(3)　施設，設備の整備・維持・運用に必要な財源確保への取り組み	財政委員会	【財政委員会】 施設等の維持管理のために，教育等施設基盤経費及び校長裁量経費を充て施設等の健全な運用を行っている。		○	【財政委員会】 施設等の維持管理のために，教育等施設基盤経費及び校長裁量経費を充て施設等の健全な運用を行った。	
3　学習・教育目標の達成	(1)　科目ごとの目標に対する達成度評価の実施	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 科目ごとに到達目標をシラバスに記載し，各担当教員が期末試験等で達成度の確認を行っている。 【専攻科委員会】 科目毎に，シラバスに記載された達成度評価基準に従って評価している。		○ ○	【教務委員会】 科目ごとに到達目標をシラバスに記載し，各担当教員が期末試験等で達成度の確認を行っている。 【専攻科委員会】 科目毎に，シラバスに記載された達成度評価基準に従って評価している。	
	(2)　他の高等教育機関で取得した単位および編入生等が編入前に取得した単位に関しての評価方法・評価基準の作成とそれに基づく単位認定の実施 ア　評価方法と評価基準の作成	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 学業に関する規則(第 9 条，10 条)で定めている。		○	【教務委員会】 学業に関する規則(第 9 条，10 条)で定めている。	
	イ　評価方法と評価基準の運用		【教務委員会】 規則に基づき，教務委員会で審議し単位の認定を行っている。		○	【教務委員会】 規則に基づき，教務委員会で審議し単位の認定を行っている。	
	(3)　学習・教育目標の各項目に対する達成度の総合的評価方法・評価基準の作成とそれに基づく評価の実施 ア　学習・教育目標の各項目の達成度の評価方法と評価基準の設定	教務委員会 (専攻科委員会) 自己点検評価委員会 (STCW 専門部会)	【教務委員会】 科目毎に，学科の学習・教育目標にもとづいた到達度と評価基準が設定され，シラバスに記載されている。		○	【教務委員会】 科目毎に，学科の学習・教育目標にもとづいた到達度と評価基準が設定され，シラバスに記載されている。	

	イ　学習・教育目標の各項目の達成度評価方法と評価基準を設定した際に考慮した「社会の要請する水準」の具体的根拠		【教務委員会】 カリキュラムや学習目標は，モデルコアカリキュラムやその他の認証評価基準および学協会の提言を参考に検討されている。		○	【教務委員会】 カリキュラムや学習目標は，モデルコアカリキュラムやその他の認証評価基準および学協会の提言を参考に検討されている。	
	ウ　学習・教育目標の各項目の達成度評価方法と評価基準の運用実績		【教務委員会】 学生による授業点検アンケートの実施，シラバスおよび答案等資料の保管により適正な評価が運用されていることを確認している。		○	【教務委員会】 学生による授業点検アンケートの実施，シラバスおよび答案等資料の保管により適正な評価が運用されていることを確認している。	
	(4)　修了生全員のすべての学習・教育目標の達成	専攻科委員会	【専攻科委員会】 修了生全員が自ら達成度自己点検表により達成度を点検し，これを特別研究指導教員，副専攻科長，学務課・学生課教務担当が点検し，専攻科委員会で審議，確認している。学生による授業アンケート等は，担当教員に開示されている。		○	【専攻科委員会】 修了生全員が自ら達成度自己点検表により達成度を点検し，これを特別研究指導教員，副専攻科長，学務課・学生課教務担当が点検し，専攻科委員会で審議、確認している。学生による授業アンケート等は，担当教員に開示されている。	
4　教育改善 4-1　教育点検	(1)　学習・教育目標達成状況の評価結果に基づいて，基準に則してカリキュラムの教育活動を点検できる仕組みの存在とその開示・実施 ア　教育点検システムの存在	教務委員会 学生委員会 寮務委員会 (専攻科委員会) 自己点検評価委員会 （STCW 専門部会）	【教務委員会】 教務委員会及びＦＤ委員会において教育活動の点検システムが構成されている。 【専攻科委員会】 学生による授業アンケート，学生懇談会が実施されている。 FD 委員会に，教育改善専門部会を設置し，点検を行っている。		○ ○	【教務委員会】 教務委員会及びＦＤ委員会において教育活動の点検システムが構成されている。 【専攻科委員会】 学生による授業アンケートが実施されている。卒業時のアンケートの実施も開始した。 FD 委員会にて本科から専攻科に至る一連の教育システムの点検を行っている。	
	イ　教育点検システムの教員に対する開示		【教務委員会】 教員会議や学科会議等で点検内容等を報告している。 【専攻科委員会】 学生による授業アンケート等は，担当教員に開示されている。		○ ○	【教務委員会】 教員会議や学科会議等で点検内容等を報告している。 【専攻科委員会】 学生による授業アンケート等は，担当教員に開示されている。	
	ウ　教育点検システムに関する活動の実施		【教務委員会】 学生による授業アンケート，教員相互のピアレビューの結果は，所属学科長を通じ教員へ通知し各教員が改善策を記載した。同時に学科内でも改善点について話し合いを行った。以上の結果が FD 委員会に報告され，学校全体としての教育改善に関する意見交換を行った。 今年度は教務委員会で以下の授業評価アンケートの見直しを行った。 ・科目抽出から全科目対象へ変更 ・質問項目の見直し ・アンケートの名称変更（「授業評価アンケート」から「授業アンケート」へ） また，処理の効率化を図るため Office365 を利用したアンケートの実施について検討した。 【専攻科委員会】 自己点検評価委員会，同ＷＧが活動を行っている。		○ ○	【教務委員会】 学生による授業アンケート，教員相互のピアレビューの結果は，所属学科長を通じ教員へ通知し各教員が改善策を記載した。同時に学科内でも改善点について話し合いを行った。以上の結果が FD 委員会に報告され，学校全体としての教育改善に関する意見交換を行った。 【専攻科委員会】 自己点検評価委員会，同ＷＧが活動を行っている。	
	(2)　カリキュラムの教育活動を点検する仕組みにおける社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みの存在と，カリキュラムの教育活動を点検する仕組み自体の機能も点検できる構成	教務委員会 (専攻科委員会) 自己点検評価委員会 （STCW 専門部会）					

	ア　社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みの存在		【教務委員会】 ・学内サーバーに議事要旨を掲載し，随時閲覧可能となっている。 ・教員会議や学科会議等で報告している。 【専攻科委員会】 本校の外部評価委員会として運営諮問会議がある。また，本校在学生からの意見を聞く学生懇談会も定期的に実施している。以上の意見を参考に，カリキュラムの改善を実施している。		○ ○	【教務委員会】 運営諮問会議、教育後援会総会、技術振興会理事会などで本校の教育内容に関してコメントを頂いている。それを踏まえ、教育体制整備推進委員会等で近年の社会の要求や学生の要望を考慮したカリキュラムの方向性を検討している。その結果を受け、教務委員会で要望等の実現に向け審議している。 【専攻科委員会】 本校の外部評価委員会として運営諮問会議がある。また，授業アンケートや修了時のアンケート実施を通じて、本校在学生ならびに修了生からの意見収集を実施している。以上の意見を参考に，カリキュラムの改善を実施している。	
	イ　点検システム自体を点検できる構成		【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会および同ＷＧは，教育活動を点検する仕組みが機能しているかどうかをチェックし，必要に応じて改善している。		○	【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会および同ＷＧは，教育活動を点検する仕組みが機能しているかどうかをチェックし，必要に応じて改善している。	
	(3)　カリキュラムの教育活動を点検する仕組みを構成する会議や委員会等の記録の当該カリキュラム関係教員に対する閲覧手段の提供 ア　関係教員が記録を閲覧する方法	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 ・学内サーバーに議事要旨を掲載し，随時閲覧可能となっている。 ・教員会議や学科会議等で報告している。 【専攻科委員会】 ・運営審議会，教員会議，教員報告会，各種委員会で報告している。 ・グループウェアに議事録等を登録することにより，情報の共有化を図っている		○ ○	【教務委員会】 ・学内サーバーに議事要旨を掲載し，随時閲覧可能となっている。 ・教員会議や学科会議等で報告している。 【専攻科委員会】 ・運営審議会，教員会議，教員報告会，各種委員会で報告している。 ・グループウェアに議事録等を登録することにより，情報の共有化を図っている。	
4-2　継続的改善	(1)　教育点検の結果に基づいて，基準の内容(分野別要件を含む)に則してカリキュラムを継続的に改善する仕組みの存在と，改善活動の実施 ア　改善システムの存在	教務委員会 (専攻科委員会) 自己点検評価委員会 FD 委員会	【自己点検評価委員会】 ・自己点検評価委員会において，PDCA サイクルの仕組みを明らかにし，サイクルにおける役割・分担を明確にして実行している。		○	【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会において，PDCA サイクルの仕組みを明らかにし，サイクルにおける役割・分担を明確にして実行している。	
	イ　改善活動の実施状況		【教務委員会】 教育課程を継続的に点検し，カリキュラムの改定等を行っている。 学級担任を通じて学生のニーズ把握に努めている。 【専攻科委員会】 学生との懇談会を定期的に実施し，学生からの要望を取りまとめ，対応可能な事項について改善している。		○ ○	【教務委員会】 教育課程を継続的に点検し，カリキュラムの改定等を行っている。また、学級担任を通じて学生のニーズ把握に努めている。 教育体制整備推進委員会で分野別要件を考慮したカリキュラムの方向性を検討しており，教務委員会ではこれを受けてその実現に向け審議している。 【専攻科委員会】 学生との懇談会を定期的に実施し，学生からの要望を取りまとめ，対応可能な事項について改善している。	
5　国際交流	(1)　国際的な学術交流活動の推進	国際教育センター 教務委員会 各学科・専攻科					

	ア　学生の交流活動状況及び指導体制		【国際教育センター】 本年度の実績は下記の通りである。 ・4名の専攻科生が海外の研究機関でのアカデミックインターンシップに参加した。 ・シンガポール・テマセクポリテクニックから4名の短期留学生を受け入れた。 ・シンガポール・ナンヤンポリテクニックから4名の短期留学生を受け入れた。 ・タイ・キングモンクット工科大学ラカバンから14名の短期留学生を受け入れた。 ・平成30年11月27日，28日に海外の協定機関等から5名の研究者を招聘した研究推進フォーラムを開催し，専攻科生64名が参加した。		○	【国際教育センター】 本年度の実績は下記の通りである。 ・8 名の専攻科生が海外の研究機関でのアカデミックインターンシップに参加した。 ・テマセクポリテクニック（シンガポール）から4名の短期留学生を受け入れた。 ・ナンヤンポリテクニック（シンガポール）から4名の短期留学生を受け入れた。 ・キングモンクット工科大学ラカバン（タイ）から11名の短期留学生を受け入れた。 ・国際交流室・国際交流センター長会議にセンター教員1名と担当事務1名が出席した。 ・トビタテ！留学JAPAN留学相談・指導担当教職員向けセミナーへセンター教員1名が出席した。 ・教育機関向け海外安全対策セミナーへセンター教員 3名が出席した。	
			【研究高度化推進センター】 平成30年11月27日，28日に海外の協定機関等から5名の研究者を招聘した研究推進フォーラムを開催し，専攻科生64名が参加した。		○	【研究高度化推進センター】 令和元年11月12日に海外の研究者4名を招聘した研究推進フォーラムを開催し，専攻科生66名が参加した。	
			【教務委員会】 短期留学受入規則に基づき，22名の短期留学生を受け入れた。 北陸地区高等専門学校留学生研修旅行（本年度は石川高専が主管）に留学生，担当教職員が参加した。また，地区内の高専で研修旅行の今後の運営について協議した。		○	【教務委員会】 短期留学受入規則に基づき，18名の短期留学生を受け入れた。 また，フィンランドのヴァーサリュセオ高等学校から16名の生徒が本校を訪問した。 北陸地区高等専門学校留学生研修旅行については，前年度の協議結果に基づき休止とした（令和2年度は富山高専が主管予定）。	
			【機械システム工学科】 3年生，4年生，5年生に在籍中の留学生に対する教育指導および進路指導を行った。また，タイからの短期留学生を複数名受け入れ，研究指導を行った。		○	【機械システム工学科】 4年生，5年生に在籍中の留学生に対する教育指導および進路指導を行った。また，短期留学生を複数名受け入れ，研究指導を行った。	
			【電気制御システム工学科】 シンガポール，タイからの短期留学生をそれぞれ3名，1名受け入れ，研究指導を行った。		○	【電気制御システム工学科】 シンガポールからの短期留学生を2名受け入れ，研究指導を行った。	
			【物質化学工学科】 3年学生が英語圏異文化実習にて9月頃にハワイに行った。		○	【物質化学工学科】 3年生，4年生，5年生に在籍中の留学生に対する教育指導および進路指導を行った。	
			【電子情報工学科】 シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通した交流を行った。KCCにおける英語圏異文化実習に参加した。		○	【電子情報工学科】 シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通した交流を行った。KCCにおける英語圏異文化実習に参加した。	
			【国際ビジネス学科】 今年度も多くの学生を送り出す一方で，アジアからの短期留学生を受け入れた。前者については，異文化実習プログラム(台湾・ロシア・韓国，各4週間弱)，長期留学プログラム(半年及び1年，いずれもカナダ)を実施した。参加者数は，異文化実習プログラム：台湾8名，韓国7名，ロシア8名，カナダ18名；提携校長期留学プログラム：カナダ1年留学6名，カナダ半年留学1名。上記実施にあたり，事前指導，事後指導の充実を図り，数回に亘るガイダンスに加え，2月および7月には事前語学セミナーを実施し，長期留学者には帰国後英文ライティング指導を実施した。 後者の留学生の受け入れについては，タイから4名，シンガポールから1名の留学生を学科として受入れ，学科教員が研究指導を行なった。		○	【国際ビジネス学科】 ・本科学生が参加する異文化実習プログラム(アメリカ，台湾・ロシア・韓国，各3週間程度)，長期留学プログラム(半年及び1年，いずれもカナダ)を実施した。参加者数は，異文化実習プログラム：アメリカ11名，台湾8名，韓国6名，ロシア9名；提携校長期留学プログラム：カナダ1年留学5名，カナダ半年留学4名。実施にあたり，事前指導，事後指導の充実を図り，数回に亘るガイダンスに加え，事前語学セミナーを実施し，長期留学者には帰国後英文ライティング指導を実施した。 ・シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通した交流を行った。受入人数は，シンガポールから1名，タイから3名であった。	

			【商船学科】 商船学科国際インターンシップを継続実施し，学生を派遣した。継続のための努力を引き続き実行する。フィリピン NTMA との相互交流を促進し，学生との交流を図った。NTMA に学生２名を派遣するとともに，NTMA の学生 10 名，引率教員３名の計 13 名の本校訪問を受け入れた。 【一般教養科】 提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジの英語圏異文化実習は，鹿児島高専・大島商船高専との合同事業に発展させた。９月に工学系の３年生，１名が参加した。学生は事前研修をして準備をした。また，現地の学生とともに授業を受け，ホームスティなどを行った。 【専攻科】 海外インターンシップ参加を推奨し，マレーシアの事業所での２週間のインターンシップに２名の学生を派遣した。また，英国北アイルランド South Eastern Regional College での国際インターンシップに２名が参加した。また，ハンガリーの２大学，台湾長庚大学でのアカデミックインターンシップ（1ヶ月）を実施し，5名の学生が参加した。その他，ルワンダでのインターンシップ１名，タイでの ISTS に２名の参加があった。 高専連携セミナー(Joint-CAST)において，専攻科生が発表と司会を行った。とやま KOSEN 研究推進フォーラムにおいて，国内外の招聘者３名の講演の聴講と，専攻科生 32 名の英語による研究ポスター発表，そして県内企業の発表を実施し，専攻科生と国外研究者ならびに社会人との交流を行った。 第３ブロック専攻科研究フォーラムに計 10 名が参加し，ポスター発表の他，２件の英語口頭発表を行い，他高専との交流を行った。	国際教育センターとの業務・役割分担を検討していく。	○ △ ○	【商船学科】 商船学科国際インターンシップを継続実施し，学生を派遣した。継続のための努力を引き続き実行する。フィリピン NTMA との相互交流を促進し，学生との交流を図った。NTMA に学生５名を派遣した。MAAP 練習船 KGO 号での合同実習に学生３名を派遣した。 また短期留学生を学科として受け入れ、研究指導を行った。 提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジの英語圏異文化実習は，鹿児島高専・大島商船高専との合同事業になっている。９月に工学系の３年生，３名が参加した。学生は事前研修をして準備をした。また，現地の学生とともに授業を受け，ホームスティなどを行った。COVID-19 の影響により３月は商船系の学生が参加予定であったが，中止となった。 国際教育センターとの業務・役割分担について検討している。 【専攻科】 海外インターンシップ参加を推奨し，マレーシアとタイの事業所での２週間のインターンシップに計５名の学生を派遣した。また，英国北アイルランド South Eastern Regional College での国際インターンシップに２名、ハンガリーの２大学、台湾長庚大学、タイ・キングモンクット大でのアカデミックインターンシップ（1ヶ月）を実施し、10 名の学生が参加した。 とやま KOSEN 研究推進フォーラムにおいて、国内外の招聘者３名の講演を聴講した。また、専攻科生 47 名の英語による研究ポスター・アブストラクト作成を実施してアブストラクト集を公開した。専攻科生と国外研究者との交流を行った。 第３ブロック専攻科研究フォーラムに計 12 名が参加し、ポスター発表や英語口頭発表を作成した。コロナ禍のため会場開催は中止となったが、発表資料は公開されている。	国際教育センターとの業務・役割分担の検討を続けていく。
	イ　交流協定の締結状況と活用状況		【国際教育センター】 交流協定に基づき，以下の事業を行った。 ・タイ キングモンクット工科大学との交流協定の有効期限到来に伴い見直し更新した。 ・英国北アイルランドの SERC より学長ほか２名が来訪した。さらに，提携開始 10 周年を記念した式典が大学コンソーシアム富山　富山駅前サテライトキャンパスで行われ，本校校長，高専機構理事長，富山大学長が出席した。 ・ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジにおいて英語圏異文化実習を行い，本校学生が１名参加した。（他高専と共同で実施） ・英国北アイルランドの SERC で実施された Robogals 活動を国際教育センター員１名が視察した。 ・ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジにおいて「海事教育における国際インターンシップの役割」シンポジウムを実施し，校長，総務課担当課長補佐，国際教育センター教員１名が出席した。 ・専攻科生を対象としたミニ国際会議「Joint-CAST」においてアドバイザーとして協定校であるハンガリーのパズマニー大学およびブダペスト工科経済大学から１名ずつ教員を招聘した。 ・タイ企業，ランプーンカレッジ，キングモンクット工科大学において海外インターンシップ実施状況調査を国際教育センター員２名が行った。 ・本校教員２名がフィンランド Vaasan lyseon lukio を訪問し，本校への訪問についての打ち合わせを行った。11 月には 16 名の学生と２名の教員を受け入れ，本校学生と交流した。 【研究高度化推進センター】 平成 30 年 11 月 27 日，28 日に研究推進フォーラムを開催し，協定校であるパズマニー大学（ハンガリー），ブダペスト工科経済大学（ハンガリー）から講師を招聘し，交流を行った。		○ ○	【国際教育センター】 交流協定に基づき，以下の事業を行った。 ・ナンヤン・ポリテクニック（シンガポール）との交流協定の有効期限到来に伴い見直し更新した。 ・ハンガリー科学アカデミー自然科学研究センター応用物理・材料科学研究所(MFA) との交流協定の有効期限到来に伴い見直し更新した。 ・長庚大学医学物理研究センター（台湾）と交流協定を締結した。 ・SERC（英国北アイルランド）より２名の教員が来校し、夏季インターンシップの概要について説明会を実施した。 ・ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジにおいて英語圏異文化実習を行い，本校学生が４名参加した。（他高専と共同で実施） ・ヴァーサ・リュセオ高等学校（フィンランド）より、学生 16 名、引率教員２名を両キャンパスで受け入れ、本校学生と交流した。 ・キングモンクット工科大学（タイ）でおこなわれたタイ高専の開校式および「KOSEN-KMITL の今後のあり方に関する会合」へ本校教員１名が参加した。 【研究高度化推進センター】 令和元年 11 月 12 日に研究推進フォーラムを開催し，海外の研究者４名による講演を行った。	

			【機械システム工学科】 タイからの短期留学生を複数名受け入れ，研究指導を行った。 【電気制御システム工学科】 シンガポール，タイからの短期留学生をそれぞれ２名ずつ受け入れ，研究指導を行った。 【物質化学工学科】 数名の教員が国際学会で研究発表を行った。 【電子情報工学科】 シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通した交流を行った。 【国際ビジネス学科】 ・平成 18 年度から本校とカナダのビクトリア大学(The University of Victoria)と長期留学プログラムの提携を結び，４年次前期の半年留学を，平成 20 年度からは，バンクーバー・アイランド大学附属高校(The High School at Vancouver Island University)と提携し３年次の１年留学をスタートさせて，毎年継続的に数名ずつが参加し現在に至っている。平成 30 年度までの累積でそれぞれ，60 名，46 名が参加している。 ・タイから４名，シンガポールから１名の留学生を学科として受入れ，学科教員が研究指導した。(再掲) 【商船学科】 ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジと締結された協定に基づき実施されている。同国際インターンシップを実施することで協定を活用している。		○ ○ ○ ○ ○	【機械システム工学科】 短期留学生を複数名受け入れ，研究指導を行った。 【電気制御システム工学科】 シンガポールからの短期留学生を２名受け入れ，研究指導を行った。 【物質化学工学科】 数名の教員が国際学会で研究発表を行った。 【電子情報工学科】 シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通した交流を行った。 【国際ビジネス学科】 ・本校とカナダのビクトリア大学(The University of Victoria)と長期留学プログラムの提携を結んでおり，今年度も４年次前期の半年留学を行った。 ・シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通した交流を行った。受入人数は，シンガポールから１名，タイから３名であった。(再掲) 【商船学科】 ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジと締結された協定に基づき実施されている。同国際インターンシップを実施することで協定を活用している。COVID-19 の影響により実施できなかったが協定は継続させる。 　フィリピン NTMA と商船系高専で締結された協定に基づき，相互交流を促進している。	
			【一般教養科】 提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジの英語圏異文化実習は，鹿児島高専・大島商船高専との合同事業に発展させた。９月に工学系の３年生，１名が参加した。学生は事前研修をして準備をした。また，現地の学生とともに授業を受け，ホームスティなどを行った。	国際教育センターとの業務・役割分担を検討していく。	△	【一般教養科】 提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジにおける英語圏異文化実習は，９月に工学系の３年生，３名が参加した。COVID-19 の影響により３月は商船系の学生が参加予定であったが，中止となった。 国際教育センターとの業務・役割分担について検討している。	国際教育センターとの業務・役割分担の検討を継続していく。
	ウ　教員の海外学術活動		【国際教育センター】 ・平成 31 年３月にハワイ大学カウアイコミュニティカレッジへ教員を派遣した。(教員海外短期派遣) ・キングモンクット工科大学工学部主催の国際会議 ICEAST2018 に国際教育センター員２名が出席し，研究成果を発表するとともに，運営に協力した。 【機械システム工学科】 ２名の本学科教員が，国内外にて開催された国際学会にて，研究発表を行った。海外インターンシップ先の視察に協力した。 【電気制御システム工学科】 本学科教員の国際会議発表件数は６件であった。 【物質化学工学科】 数名の教員が国際学会で研究発表を行った。 【電子情報工学科】 ・例年同様に本学科教員たち（指導学生を含む）が国際会議発表を積極的に行っている。 ・海外の大学と研究打ち合わせを行った。		○ ○ ○ ○ ○	【国際教育センター】 ・ISATE(International Symposium on Advances in Technology Education)において本校教員が査読委員を担当し、運営協力を行った。 【機械システム工学科】 数名の本学科教員が，国内外にて開催された国際学会にて，研究発表を行った．海外インターンシップ先の視察に協力した。 【電気制御システム工学科】 本学科教員の国際会議発表件数は６件であった。 【物質化学工学科】 数名の教員が国際学会で研究発表を行った。 【電子情報工学科】 ・例年同様に本学科教員たち（指導学生を含む）が国際会議発表を積極的に行っている。 ・海外の大学と研究打ち合わせを行った。	

			【国際ビジネス学科】 ・中古自動車部品貿易及び中古車貿易に関し国際的ハブとなっているマレーシアにおいて，事業者に対してその集積および取引規模の聞き取りを行い，流通過程の調査を行った。この調査は(社)日本港湾協会による，「平成 29 年度港湾関係研究奨励助成」によって行ったものである。(3 人,2018.09.01-09.06) ・シンガポールの観光政策を調査するため，ジェトロシンガポール事務所に訪問調査（ヒアリング）を行い，IR（統合リゾート）の現地視察を行った。（1 人，2018.9.8-9.12) ・香港で開催された，International Symposium on Advances in Technology Education(ISATE2018) にて，地域イノベーションに関する研究成果の口頭報告を行った。（1 人，2018.9.18-9.21) ・地域イノベーション論において専攻科学生 1 名を引率し，ベトナムの科学技術政策に関する現地調査を行った。（1 人，2018.11.20-11.25) ・タイで開催された，International Conference on Economics, Management and Social Study(ICEMSS2018)にて，地域イベーションに関する研究成果の口頭報告を行った。（1 人，2019.1.4-1.9) ・中古自動車部品貿易及び中古車貿易に関し国際的ハブとなっているマレーシアにおいて，事業者に対してその集積および取引規模の聞き取りを行い，流通過程の調査を行った。また，業界団体との会合でプレゼンテーションを行った。この調査は(社)日本港湾協会による，「平成 29 年度港湾関係研究奨励助成」によって行ったものである。(1 人,2019.03.11-03.14) ・中古自動車部品貿易及び中古車貿易にインドシナ半島のハブとなっているタイにおいて，事業者に対してその集積および取引規模の聞き取りを行い，流通過程の調査を行った。この調査は(社)日本港湾協会による，「平成 29 年度港湾関係研究奨励助成」によって行ったものである。(1 人,2019.03.15-03.16) ・イギリスの障害者雇用における合理的配慮を提供する法制の研究のためにイギリスに赴き，この研究分野の第一人者であるリーズ大学法科大学院の教授と意見交換を行い，ジョブセンタープラスでの聞き取り調査等を行った。(1 名，2019.3.13-3.21) 【一般教養科】 提携校ハワイのカウアイコミュニティカレッジにおける「英語圏異文化実習(工学系プログラム)」の事前指導を行った。		○ ○	【国際ビジネス学科】 ・本科教員による海外学術活動は積極的に行われた。中国，ロシア，イギリスなどで現地学術調査が行われた。 【一般教養科】 数名の教員が，海外での学会で研究発表を行った。	
6　社会との連携	(1)　地域自治体・企業との連携による教育・研究の高度化 ア　地域社会との共同研究・共同開発事業の企画・実施	ソリューションセンター，研究高度化推進センター，国際教育センター 学生主事室	【ソリューションセンター】 ・コーディネーターによる企業訪問により，企業人向け企業人教育・技術支援セミナーの広報を行い，地域企業の要請に基づき，企業人教育・技術支援として，2 社 6 件のセミナーを開講した。 ・平成 30 年度より，産学官連携活動の促進を目的とした「グリーンイノベーション研究会」，製品開発事例を企業に紹介を目的とした「製品開発セミナー」を統合し，新たに『とやま KOSEN コラボフォーラム』を発足。8 月と 2 月の 2 回開催し，本校や他高専の産学連携の現状に関する情報を提供するとともに，本校教員のシーズ紹介，研究成果報告等を行った。 ・次世代スーパーエンジニア養成コースに講師として教員の派遣し，講師の教員に対して，技術振興会予算に基づく経費支援を行った。		○	【ソリューションセンター】 本校の産学連携コーディネーターによる企業訪問により，企業人向け企業人教育・技術支援セミナーの広報を行い，地域企業の要請に基づき，企業人教育・技術支援として，４社９件のセミナーを実施した。 また，産学官連携活動の促進及び製品開発事例を企業に紹介を目的とした「とやま KOSEN コラボフォーラム」を８月と２月の２回開催し，本校や他高専の産学連携の現状に関する情報を提供するとともに，本校教員のシーズ紹介，研究成果報告等を行った。 大学コンソーシアム富山地域貢献部会の事業に参画した。 富山大学と本校が実施する次世代スーパーエンジニア養成コースに講師として教員の派遣し，講師の教員に対して，技術振興会予算に基づく経費支援を行った。	

			【研究高度化推進センター】 科研費講習会を２回，研究に関する講演会を１回開催したほか，科研費調書作成に対するアドバイスを行うことを目的としたアドバイザー制度を準備し，採択率向上を目指した。 小水力発電アイデアコンテストについては，東海北陸地区でほぼ一巡したことから，第７回をもって終了とした。 学生の研究力向上及び地域との連携を目的として，鶴岡高専が開催する高専生サミットに２名の学生が参加した。 【国際教育センター】 留学生と日本人学生が，射水市の小学校を訪問し，留学生の母国紹介に関するプレゼンテーションを行う事業を１回実施した。 【ソリューションセンター】 企業等との共同研究，受託研究を推進し，特に技術振興会会員企業との共同研究には技術振興会予算に基づく助成を行った。件数は共同研究５０件，受託研究１０件(うち技術振興会企業３０件)であった。 また共同研究の推進を目的に，助成制度の見直しを行った。		○ ○ ○	【研究高度化推進センター】 科研費講習会を２回開催したほか，科研費調書作成に対して，査読・アドバイスを行う体制を準備し，採択率向上を目指した。 本校が主査校として活動している，第３ブロック研究推進ボード主催の「研究力向上と科研費獲得のための研究発表会」を開催し，第３ブロックのほか，鹿児島高専，長岡技術科学大学の教員との間で科研費調書作成に関して，情報を共有した。 高専機構が実施する，科研費講習会に技術職員を派遣し，奨励研究の採択率の向上を目指した。 また，長岡技術科学大学等との間で，地域の機関及び企業間での連携を目的とした，機器共用ネットワーク事業を実施した。 【国際教育センター】 留学生と本校学生が，射水市の小学校を訪問し，留学生が母国について、本校学生が夏季休業期間に体験した短期留学についての経験を報告し、国際交流，異文化理解に関する授業の支援を行った。（小学校異文化理解支援事業） 【ソリューションセンター】 企業等との共同研究，受託研究を推進し，特に技術振興会会員企業との共同研究には技術振興会予算に基づく助成を行った。件数は共同研究５２件，受託研究１５件(うち技術振興会企業３６件)であった。 また，共同研究の推進を目的に，助成制度の見直しを行った。	
	イ　地域社会との連携による本校教育の高度化のための企画・実施		【ソリューションセンター】 ・主に地域の技術者をシニアフェローとして任命し，本校の講義・演習に活用した。 ・富山県機電工業会と包括協定を行い，富山県内のものづくりに関係した企業技術者を講師として，「地域産業学」の講義を行った。また，技術振興会会員企業の後援による講義を行った。 【研究高度化推進センター】 地域の技術者を講師として，授業を担当いただく仕組みとして，「研究推進レクチャーシリーズ」を実施した。 【国際教育センター】 国際交流に明るい学術者をシニアフェローとして任命し，協定校インターンシップシップ支援に活用した。		○ ○ ○	【ソリューションセンター】 主に地域の技術者をシニアフェローとして任命した。 本校の講義・演習に活用された。 富山県機電工業会との包括協定に基づき，富山県内のものづくりに関係した企業技術者を講師として，「地域産業学」の講義を専攻科と協力して行った。 技術振興会会員企業と連携した産学連携教育 Ti-TEAM を教務主事・主事補，産学連携コーディネーターと連携して実施した。 【研究高度化推進センター】 地域の技術者や他機関の研究者を講師として，授業を担当いただき，教育の高度化を図った。 【国際教育センター】 国際交流に明るい学術者をシニアフェローとして任命し，協定校インターンシップ支援に活用した。	
	ウ　地域社会との連携事業に関する広報		【ソリューションセンター】 地域社会との連携のため，とやま KOSEN コラボフォーラムを年２回開催，中小企業の研究開発・ものづくりに関する情報の提供を行った。 また，企業訪問を４回実施した。 また技術振興会企業を学生に理解してもらうため，毎年行っている企業研究会に加え，両キャンパスの学生玄関に企業 PR を提示するデジタルサイネージを導入した。		○	【ソリューションセンター】 地域社会との連携促進のため，「とやま KOSEN コラボフォーラム」を年２回開催，本校の産学連携の取り組みや中小企業の研究開発・ものづくりに関する情報の提供を行った。また，地域企業への企業訪問を３回実施した。 企業を学生に理解してもらうため，両キャンパスの学生玄関に企業 PR を提示するデジタルサイネージを導入し，継続的に PR を行った。	